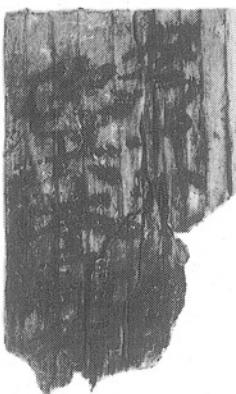


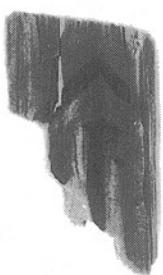
八九年)
韮山町教育委員会『史跡韮山反射炉保存修理事業報告書』(一九



(1)



(2)



(3) (部分)

(原
茂光)

山梨・大師東丹保遺跡

所在地 山梨県中巨摩郡甲西町大師・清水

調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九四年一二月

発掘機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 新津 健・田口明子・小林健二・小泉 敬

保坂和博・松土一志

遺跡の種類 建物跡・水田跡・祭祀跡・古墳・地震跡

遺跡の年代 一世紀～四世紀・一二世紀～三四世紀

7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

大師東丹保遺跡は、甲府盆地の中でも低位の地域に位置し、標高

二五〇m前後を測る。この



(鰐沢)

一帯は甲府盆地西縁にある
櫛形山から流れ出す幾筋も
の小河川によって形成され
た扇状地の扇端部にあたり、
豊富な湧水のもと、弥生時
代以降の遺跡が多く、古代
末から中世にかけては甲斐
源氏の一統が居館を定めた

地域であり、古長禅寺のような戦国期大井氏に関わる寺院もある。

本遺跡の調査は、中部横断自動車道建設・国道五二号線（通称甲西バイパス）改築に伴い、山梨県埋蔵文化財センターが行なった。

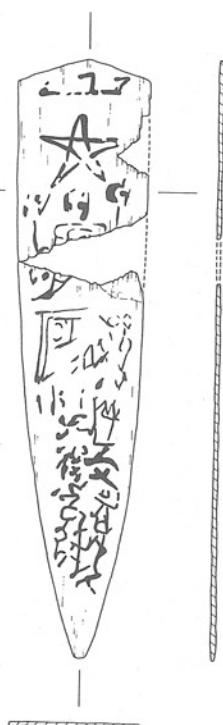
調査区域が幅四〇m長さ四〇〇mと広いことから、既設の道路により概ね一〇〇m北と南からI区～IV区と区画し、I区・II区を一九九三年度に、III区・IV区を一九九四年度に調査した。河川の氾濫により砂礫層・シルト層・粘土層が堆積しており、各調査区において二層から三層の文化層が確認されている。

調査の結果、鎌倉時代の建物・水田・祭祀跡・溝・杭列、古墳時代前期の円墳、弥生時代後期の水田・地震跡、弥生時代中期の溝など様々な時代の遺構が発見されている。遺物についても遺存状況が出土したII区では、鎌倉時代中頃を中心とした多くの木製品をはじめ土器・陶磁器、石製品、金属製品、動・植物遺存体などがあり、本県における中世前半期の基礎的な資料となろう。木簡は包含層中より一つに折れて出土し、洪水で流された可能性もあり原位置を特定することはできない。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「山☆(符籙)」

233×50×2
051



(小林健一)

ては墨痕は不明瞭であり赤外線写真でも判然とせず、この木簡の性格を特定することは難しい。しかし遺跡一帯の地理的環境を考慮すれば、止雨を祈願した呪符とも考えられ、疫病除けの「蘇民将来札」ではないようである。他に人形・陽物形などの祭祀用具やウマの下顎骨なども出土しており、当時の生活に呪術習俗が深く関わっていたことが窺える。

釈読については、奈良大学の水野正好氏にご教示いただいた。

9 関係文献

山梨県教育委員会『大師東丹保遺跡』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告八七 一九九四年)

山梨県教育委員会『大師東丹保遺跡2』(山梨県埋蔵文化財センター調査報告一〇一 一九九五年)

(小林健一)

陰陽道の五芒星を記した呪符木簡である。符籙以外の部分につい